

令和6年度

橋本市 市政報告会

橋本市の今とこれからについて

橋本市



～ともに創る～

産業



○プレミアムデジタル地域通貨Hashi-Mo

市内の経済の循環を推進するため、デジタル地域通貨Hashi-Moに20%のプレミアム率を上乗せし発行します。スマートフォンのアプリを利用するほか、スマートフォンを利用しない人にはカードを発行します。市内の登録店舗で使うことができ、経済の好循環につながります。

【R6 予算額】 2億4,000万円

○ふるさと納税・・・目標額6億2,200万円

ふるさと納税の制度を利用し、全国からふるさと応援寄付金をいただいています。返礼品には、橋本市の農産物や商工業の産品を使い、毎年寄付額は増えています。ふるさと納税による寄付金は、「橋本ふるさと便事業」や「子ども医療費助成事業」など、産業振興や子育て、移住定住施策に活用しています。

【R5 年度実績】 5億6,469万7,500円

○橋本ふるさと便（農業版・商工版）

橋本ふるさと便は、指定事業者が生産・販売する農産物や加工品を、市内外に発送する際の送料を橋本市が補助しています。また、商工業者が、自社の商工製品をPRするために市内外に発送する際の送料等も補助しています。

【R6 予算額】 9,000万円（農業版）1,600万円（商工版）

○新商品開発支援補助金

新商品の開発や新たな方法で販売先を拡大するなど、市内の中小企業者や農業者の取組みを支援することで、本市の産業の活性化につなげます。また、開発された商品をふるさと納税の返礼品に活用していきます。

【R6 予算額】 1,000万円

～ともに創る～

企業誘致



○令和6年12月より分譲開始

完売した工業団地『紀北エコヒルズ』に続き、雇用の拡大、地域経済の活性化を図るため、平成28年度から「和歌山県・橋本市・南海電気鉄道株式会社」の3者共同で、『あやの台北部用地』の開発を開始しました。令和2年2月から本格的に造成工事に着手し、本年12月より分譲手続きを開始します。

【R6予算額】 37億4,385万7千円

○造成工事における不具合への対応

あやの台北部用地造成工事の施工途中で、受注者の盛土施工管理に不具合が判明しました。市は受注者に対し、原因の調査と不具合箇所の改善を指示し改善策を講じた結果、現在は全宅地とも基準を満たす土地となっています。

○誘致企業の状況

企業誘致施策により、誘致実績は48社、うち45社が操業を開始しています。なお、今年度中に2社が操業開始予定です。誘致企業の雇用者は1,765人、そのうち地元雇用者は1,016人となっています。（令和6年8月末現在）また、平成17年度より開始の企業誘致施策によるこれまでの税込等の収入は、累計で31億1,149万5千円で、そのうち令和5年度は5億1,717万円です。

○小峰台垂井線の整備

あやの台北部工業団地へのアクセスが良好となるよう、幹線道路となる小峰台垂井線を整備します。

【R6予算額】 1億円

～ともに創る～ シティプロモーション 情報発信

○観光

高野口駅の駅舎を含め駅周辺では、歴史的な建物やカフェ、地場産業など、観光資源となる施設が増えてきています。これらの観光スポットをエリア内で周遊し、また体験メニューなども組み込むことで、観光に訪れる人も増えることが期待できます。また、高野山麓ツーリズムビューローとも連携し、サイクルツーリズムも推進しています。

【R6 予算額】 5,977万円

○橋本市公式ライン

子育てやイベント情報など、欲しい情報を自分で選んでラインで通知を受け取ることができます。例えば、ゴミ出しを忘れないよう収集日の通知機能もあります。また申請や予約の機能もあり、市役所に行かなくてもできる手続きもあります。



○民間との連携

シティプロモーションや情報発信について、民間のノウハウを活用し、発信力を高めるよう研修や助言を受けています。

○移住・定住支援

人口が減少しているものの、子育て世帯の転入が進んでいるのが本市の人口動態の特徴です。ファミリー層などの転入を促進し、人口の減少速度を緩やかにするため、「転入夫婦新築住宅取得補助金」や「空き家移住応援補助金」などにより転入を促進しています。

【R6 予算額】 2,706万5千円

○市制20周年記念事業（令和7年度）

令和7年度は、橋本市と高野口町が合併して20周年を迎えます。市制20周年を記念して市民のみなさんが参加できるイベントなどを現在企画しています。



～ともに守る～

防災

○戸別受信機の配布・・・配布時期を前倒し

市民の皆さまに災害情報を確実にお届けするため、自動的に災害情報等を受信する防災ラジオを、希望する全世帯に無償で貸与しています。当初は令和7年4月から整備する予定を、早急に整備するため令和6年4月末から順次申請、配布をしています。また、情報を発信する送信局に不具合が生じてても発信に影響がないよう、かつらぎ町と相互利用をする覚書を結んでいます。

【R6 予算額】 9億1,810万円

○消防の体制、機能の充実

地震発災時に72時間の業務が継続できるよう、橋本北消防署に自家用給油取扱所を整備し、ガソリン6,000リットル、軽油6,000リットルを備蓄します。この備蓄により、災害発生時に救急・救助活動や市民の安全を守るために出動することができます。

【R6 予算額】 9,237万8千円

○地域での防災活動

防災訓練、防災講話等を防災関連団体との協働により実施します。防災訓練は、大規模な訓練ではなく、地域でスムーズに助け合いができるよう、それぞれの地域にあった訓練とし、「公助」の支援が届くまでの「共助」を推進します。

【R6 予算額】 303万円

○上下水道の取組み

被災した際、他の自治体からの支援をスムーズに受けられるよう、「応急給水受援マニュアル」を作成しています。また、能登半島地震による被災に対し、橋本市水道工事業協同組合員とともに、現地で水道施設の応急復旧活動に取り組み、様々な情報や知識、技術を得ました。効率の良い応急給水が行えるよう、水道応急給水車両を新たに配備します。

【R6 予算額】 2,484万5千円（給水車購入のための予算）



～ともに守る～

インフラの整備

○道路、橋梁、市営住宅等の長寿命化

道路施設などは、効率的で効果的な予防修繕を行い、損傷箇所を緊急・応急的に修繕することで、安全性の確保及び施設の長寿命化を図っています。また、市営住宅についても計画的に建物の改修を行うことにより長寿命化につなげています。

【R6 予算額】 3億1,855万2千円

○愛される公共交通をめざす「はしっこバス」

公共交通機関がカバーできない地域などの移動手段として市内を循環するコミュニティバスは、「はしっこバス」の愛称で4路線の運行をしています。令和5年度に市民の皆さまからいただいたご意見を反映し、運行路線と時刻表を見直したことで利用者も増え、乗り換えもスムーズになりました。令和6年度では、運行車両を2台とも新しい車両に買い換えます。

【利用実績】 ・コミュニティバス (R4) 20,182人⇒(R5) 28,646人
・デマンドタクシー (R4) 1,181人⇒(R5) 2,499人

【R6～11年予算額】 25,075,600円 (コミュニティバス購入費)



○公園遊具の安全対策

市内の都市公園、ちびっこ広場の遊具の一部に、安全基準不足や劣化していることがわかりました。現在、使用禁止としている遊具の撤去や、安全に使えるようにするための修繕をします。

【R6 予算額】 586万7千円

○天見紀見トンネルの開通

令和6年6月に本市と大阪府河内長野市を結ぶ「天見紀見トンネル」が開通しました。市民の皆さまの利便性が高まるとともに、観光や企業誘致などの産業の活性化や、交流人口・関係人口の増加の他、災害時の物資の輸送、また緊急医療活動において、非常時に強いまちづくりにもつながります。

～ともに守る～

高齢者福祉



○介護保険料の引き下げ

令和6年度から8年度までの第9期の介護保険料について、基準月額を引き下げます。（第8期より1,000円減額）

【基準月額】 第8期（R3～5年度）6,300円▶ 第9期（R6～8年度）5,300円

1,000円の減

【抑制要因】 ・介護予防事業の充実によるサービス利用者の減少
・介護給付費準備基金の取崩し

○地域ふれあいサロン・げんきらり～教室

高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも元気に生活するために「介護予防」の活動が実施されています。地域ふれあいサロンでは、高齢者が気軽に楽しく集まれる場所として各地域で食事会やレクリエーション、体操などの活動が実施されています。また、げんきらり～教室・いきいき百歳体操教室では、ストレッチや筋力トレーニングなどを学び、教室の卒業生は各地域で自主的に教室を運営しています。

○地域での助け合い・支え合いを推進

市内10の圏域で第2層協議体を立ち上げ、それぞれの地域に合った助け合いの活動が展開されており、市はその地域活動を支援しています。例えば、高野口地区では、通院や買い物の移動に困っている人を支援する活動が行われています。市では地域の人が運転する車を用意するなどの支援をしています。ごみ出しや草引き、地域食堂などそれぞれの地域の状況にあった助け合いの活動が展開されています。

【R6予算額】 1,354万2千円

○高齢化率

本市の人口は58,904人、そのうち65歳以上の方は20,517人で、高齢化率は34.83%です。100歳以上の高齢者は62人です。（令和6年8月31日現在）

～ともに守る～

福祉・健康

○重層的支援体制の整備

介護や高齢、子ども、障がい、また生活困窮などで複合的に相談や支援を受けたい場合に、これまでは各分野ごとに受付けていたものを、どの分野の窓口でも包括的に相談を受け支援につなげ、悩みを抱える人への支援が途切れることのないような体制を整備します。

【R 6 予算額】 1億8,094万8千円

○ひきこもり支援

ひきこもっている人の身近な相談先として、これまで市内のNPO法人が支援に取り組んでいました。ひきこもっている人やその家族に対し継続的に支援を続けていけるよう、相談支援や居場所づくり、当事者会や家族会の開催等、橋本市、九度山町、高野町の1市2町で支援事業を実施します。

【R 6 予算額】 1,147万9千円



○たんぽぽ園の延長保育

橋本市立たんぽぽ園（児童発達支援事業所）では、保護者の就労を支援するため、令和6年度から18時までの延長保育を始めました。また、たんぽぽ園とつくしんぼ園に在籍する園児が施設で過ごしている間のおむつの無償提供も令和6年度から始めました。

【R 6 予算額】 588万1千円

○健康増進・介護予防事業

いきいきルームでは、健康運動指導士等の指導のもと、運動機器を用いたトレーニングができ、個々の目標に応じたトレーニングメニューもスタッフが提案しています。また、和室ではリズム体操やストレッチ体操、バランスボールやゴムチューブを使用したグループ体操も実施しています。若者から高齢者まで多くの方が利用しており、健康増進、介護予防、交流の場につながっています。

【R 6 予算額】 1,898万4千円

～ともに育てる～

子育て

○児童手当、乳幼児医療・子ども医療費の所得制限を撤廃

令和6年10月から、乳幼児医療と子ども医療費の支給対象者（小学生・中学生・高校生年代）について、これまでの所得制限を撤廃します。また、児童手当についても所得制限が撤廃され、対象児童が高校生年代まで拡充、また第3子以降の支給額が30,000円（増額前：小学校終了前の子15,000円）等となります。

【R6 予算額】 2億948万8千円

○学校給食費の無償化

県の公立学校給食費無償化事業を活用して、保護者の経済的負担を軽減するため、令和6年10月から令和7年3月までの公立小中学校の学校給食費を無償とします。また、物価が高騰しても充実した給食を提供するため、材料費の増加分を市で負担します。

【R6 予算額】 2億6,152万3千円



○保育環境の整備（紀見こども園）

保育施設の老朽化などに対応し、子育て環境をさらに充実させるため、紀見保育園・紀見幼稚園・境原幼稚園・柱本幼稚園を統廃合し公設公営の『紀見こども園』を整備します。公立園で実施してきた橋本市の幼児教育・保育を継承し、令和7年4月に開園する予定です。令和6年度は園舎の新築と駐車場整備工事を実施します。

【R6 予算額】 7億5,553万6千円

○新生児聴覚検査費用を助成

新生児の聴覚障がいを早期に発見することで、その後の音声言語発達等への影響が最小限に抑えられます。分娩施設などで実施している聴覚検査の費用の一部を市が負担します。

【R6 予算額】 155万円

～ともに育てる～

教育と福祉の連携

○こども食堂を通じた地域づくり

こども食堂が子どもたちの居場所となり学習の場にもなっています。現在12のこども食堂が運営されており、各小学校区（14校）に設立を目指しています。こども食堂から高齢者も含めた地域食堂への移行も進めており、教育委員会とも連携して学習支援の拡充を目指しています。

【R6 予算額】 1,061万7千円

○妊娠期から18歳までの切れ目のない支援

平成29年に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期の幅広い相談に対応し、切れ目のない支援を継続して実施しています。教育部門と福祉部門がお互いに連携し、児童虐待の未然防止やヤングケアラーの支援体制の構築にも取り組みます。

【R6 予算額】 1億2,276万7千円



○家庭教育支援チーム『ヘスティア』

家庭教育支援チーム『ヘスティア』は、子どもが自立した大人に成長できるように、また、保護者が子育ての不安や悩みを抱えたまま孤立することがないように、地域・学校・行政と連携を取り合い、子どもの育ちや子育てを見守り支援しています。平成20年から活動を続けており、元教員や元保育士、臨床心理士、絵本専門士など多彩なメンバーで構成されています。

【R6 予算額】 1,001万3千円

○室内の遊び場の解放

暑い日や寒い日、また雨天の時など、子どもたちがのびのびと楽しく遊べるよう、保健福祉センターの遊戯室と屋外遊戯場、また教育文化会館の幼児室を解放しています。子どもの成長に合った遊具やおもちゃなど充実させていきます。

【R6 予算額】 94万円

～ともに育てる～

教育

○教育環境の整備

・橋本市立小中学校適正規模・適正配置

児童生徒数の減少が顕著になってきていることから、今後、多様な子どものニーズに対応できる学習環境をさらに維持していく必要があります。教育委員会では第2期橋本市立小中学校適正規模・適正配置基本方針を策定し、これからの望ましい教育環境を構築するために、学校再編への取組みを進めています。

【R6 予算額】 1,667万1千円

・学校施設の長寿命化

築40年以上経過した学校施設は老朽化が著しくなっており、子どもがより良い教育環境で学べるよう、計画的に大規模な改修を行い、学校施設を長寿命化する取組みを進めています。

特に、高野口中学校の老朽化については早期に対応したいと考え、建替えも含めて検討します。

【R6 予算額】 4億7,905万1千円



○岡潔数学体験館での体験学習

世界的な数学者であり本市の名誉市民でもある岡潔博士の功績をたたえ、偉業を未来に継承していくとともに、算数・数学への関心が深まるよう、体験教室や講演会など実施しています。本市の出身で東京大学先端科学技術研修センターの神崎亮平氏が名誉館長を務め、神崎氏による体験教室も実施予定です。

【R6年4～8月実績】 開館日数51日、来館者1,148人

【R6 予算額】 857万5千円

○みんなあつまれ！『橋っ子祭り』の開催

子どもたちが様々な経験をできる場を提供し、子どもたち自身が祭りの企画・運営に参画することで、郷土愛を育むことを目的とした『橋っ子祭り』を開催します。実行委員会では子どもが中心となり、実施に向けての検討を進めました。令和6年度は9月22日に実施しました。

【R6 予算額】 458万8千円

～ともに育てる～

地域コミュニティ

○SDGs 交付金の拡充

区・自治会が、身近な地域課題を自主的に解決し、創意工夫により持続可能でより良い地域社会の実現に資するための活動を支援するため、『持続可能な地域コミュニティ発展交付金

(SDGs 交付金)』を創設。令和6年度からは、地域の特色を活かした事業に対して、交付金を上乘せしています。今後も継続して交付金の見直しを行い、区・自治会活動を支援します。

【R6 予算額】 7,149万1千円

○さんかくポイント・推進ポイントの発行

市内の経済循環の向上と施策の推進や市民協働を推進するため、デジタル地域通貨 (Hashi-Mo) を活用して、ボランティアや講座、教室への参加ポイント「さんかくポイント」を付与します。また、生ゴミのリサイクルや防災マイタイムラインの作成などへの参加に対しては「推進ポイント」を付与します。

【R6 予算額】 503万2千円



○地域運営組織

市内10圏域で、区や自治会に加えて、第2層協議体や自主防災会、共育コミュニティ、地域食堂の運営団体など、地域で活動する団体などが意見を出し合い、地域全体で連携・協力して活動することで、自分たちが理想とする地域づくりを、市民と行政が協働して進めていきます。

【R6 予算額】 410万9千円

○「はしもとプラチカ」が始動！

市内初の「協働の実践を広げること」を目的とした団体となる「はしもとプラチカ」の活動が始まりました。活動の目的は「協働の取り組みを実践する人」を増やすことです。令和6年度は企業や市民と協働する連続講座「みんなでチャレンジ！！」を開催しています。なお、参加者には「さんかくポイント」を付与しています。

【R6 予算額】 107万7千円

お礼とお願い

この度は、お忙しいところ、市政報告会にご来場いただきありがとうございます。
今後の開催の参考にいたしたく、アンケートにご協力をお願いします。
下記の二次元コードをスマートフォンで読み込むと、アンケートに回答できます。

紙でも回答できますので、近くの市職員にお声がけください。

